



下郷中だより

◇下郷中学校教育目標◇

「知性」「品格」「健康」

「当たり前」の事を「当たり前」にできる」

No. 9 令和3年 12月23日(木)

文責 下郷中学校長 我妻 雄比古

「第2学期終了」

83日間の2学期も本日をもって終了となり、明日からは冬休みです。多少の病気やけが等はありませんでしたが、全員元気に終業式を迎えることができて、大変うれしく思います。

さて、2学期を振り返ってみると、多くの行事等があり、それぞれ心に残ることがありました。

1つ目は、新型コロナウイルス感染症予防についてです。

3密防止、ソーシャルディスタンス、換気や消毒等、日々の生活において、自らの健康安全に留意し、過ごすことが出来ました。また、感染状況により日程を変更して実施した1年生の郷土学習、2年生の職業学習、3年生の修学旅行など、実施内容を工夫をしながら良い体験ができました。

2つ目は、下中祭についてです。

1日での開催でしたが、内容等を工夫し実施することができました。「百花繚乱 下中開花」をテーマに、各クラスの心を一つにしたボディパーカッションや、ダンスコンクールのチームワークに感動しました。また、吹奏楽部の軽快でリズムカルな演奏、アイディア満点の有志発表も深く心に残っています。生徒会執行部を中心に、3年生の心強いリーダーシップもあり、限られた時間を有効に使いながら新たな下中祭をつくりあげてくれました。

3つ目は、受賞ラッシュについてです。

各種コンクール等では、県内トップとなる受賞を始めとし、多くの受賞がありました。そして、部活動においても活動制限等がある中、各部とも精一杯頑張ってくれました。特に、新人大会では卓球部の全会津大会準優勝、キャッチボールクラシック世界交流大会では野球部が世界4位に輝き、素晴らしい活躍を見せてくれました。野球部のキャッチボール回数は、2分間で124回でした。なぜ、このようなすごい数字が出せたのでしょうか？それは、「思いやりの心を持って相手が捕球しやすいボール投げる」という精神があったからだと思います。

このように、思いやりの心で接することができれば、相手を傷つけるような行動・言動は起きないように思います。人にはそれぞれの良さや可能性または欠点があります。それをお互いが認め合い、活動の際には、助け励まし合いながら取り組み、人間性を高め、共に向上していったと願っています。

実り多い2学期でしたが、冬休みはクリスマスや正月で生活リズムや体調を崩しやすいので、健康には十分ご配慮いただきながら過ごすことができますようご家庭でのご指導をお願いいたします。

良い新年をお迎えください。



の行事予定



1	元旦 冬期休業日	11	3学期始業式 明けテスト(1・2年) 実力テスト(3年)	21	英検 ノー部
2		12	県中体連スキー大会	22	
3		13		23	
4		14		24	朝会
5	ふくしまっ子ごはんコンテスト表彰式	15		25	3学期末テスト SC来校
6		16		26	
7		17		27	
8		18	SC来校	28	生徒会総会要項審議
9	町成人式	19	生徒会専門委員会・部活動反省	29	
10		20	職員会議 ノー部	30	
				31	校内スキー教室(1・2年) ノー部

※ 新型コロナウイルス感染症の状況によっては変更になることがあります。

学校での活動の様子を随時ホームページでお知らせしています。是非ご覧下さい。

裏面もご覧ください

下郷町教育ポータルから検索 <https://shimogo.fcs.ed.jp/下郷中学校>



「50周年記念講演より」



12月7日（火）に、下郷中学校統合50周年記念講演会を開催しました。講師に、露崎 亘様をお招きしてご講演いただきました。露崎様は、本町出身で本校の卒業生であり、現在声優として活躍され、アラジンや妖怪ウォッチ等にも出演しています。講演では、「自分らしく働くために持つ心構えとは」と題し、下郷町で過ごした子どもの頃や現在に至るまでを振り返りながら、目標達成のために必要なことなどをお話いただきました。また、台本をもとに生徒同士で声優体験も行っていました。生徒一人一人が想像力を生かして声優を演じ、とても盛り上がりました。



〈講演を聴いた生徒の感想より〉

- ・ 声優体験をしてみんなの前で緊張したけど、楽しかったし、声優になった気分になり、すごく貴重な体験ができた。
- ・ 初めて知ったこともあり、声優について興味を持つことができた。
- ・ 人生を変える出会いをすること、今しかない時間を大切にすること、自身を持つことなど、人生を変える出会いがいつか来るように、これからも色々なことに挑戦したいと思った。
- ・ 夢を持つことの大切さ、私には夢がまだないので、決まった時にはあきらめずに夢を追い続けたいと思った。
- ・ 言葉は道具でもあり、それは、人を様々な思いにさせるのだということが心に残った。
- ・ 人を傷つけてしまうような言葉を使わず 相手のことを考えた言葉を使っていきたい。
- ・ 露崎亘さんは、イケボで、イケメンでした。
- ・ 夢を叶えるためには、様々な方法があるのだということがわかりました。
- ・ 言葉の持つ力について、深く考える機会となった。言葉は人を傷つける道具にもなるし、うまく使えば素敵な人生を送るための道具にもなる。

